

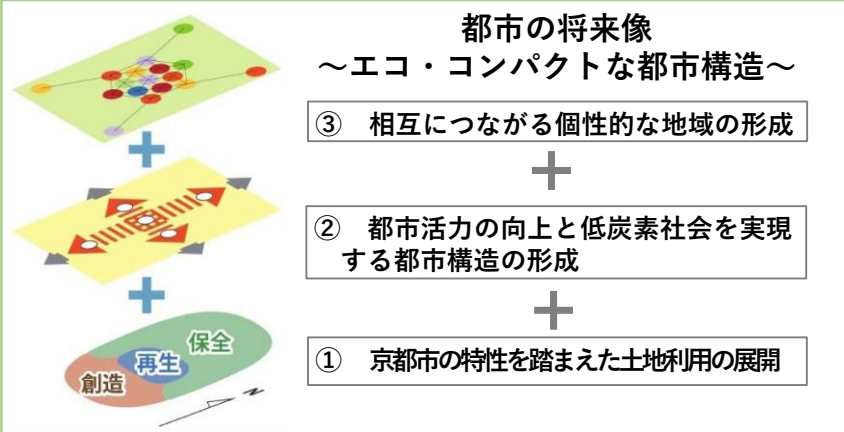
主な御意見の趣旨

- 自然景観や歴史、文化といった、これまでから受け継がれてきた京都の強みを守り育て、いかしていくことが、魅力的な都市の在り方として重要
- 京都ならではの暮らしや環境の重要性がコロナ禍で再認識された今だからこそ、都市マスを見直す意義が大きい。コロナ社会を展望し、京都の可能性を更に伸ばしていくことが重要
- 景観や環境を守るためにも経済が重要。近隣都市との関係を大事にしながら、周辺部の活力を伸ばし、大阪や東京とは異なる京都ならではのまちづくりを目指すべき
- 各分野の政策ブリッジを強め、実効性のある施策に結び付けるために、方面別指針を即地的に検討するのは良い視点

拡充の方向性

京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」の実現

現行「都市マス」



持続可能な都市構築プラン



時代の潮流 (現行都市マス以降)

- 真のワーク・ライフ・バランス
- 地方創生
- SDGs
- society 5.0
- レジリエンス 等

次期「基本計画」

「ウイズコロナ・ポストコロナ社会」への展望



保全

自然と歴史的な景観を保全するとともに、良好な居住環境の保全・向上を図るゾーン

再生

商業・業務機能が集積し、歴史豊かな市街地における調和を基調とする再生を図るゾーン

創造

21世紀の新たな活力を担う創造のまちづくりを進めるゾーン

歴史文化都市・京都が未来に受け継ぐ魅力の源泉

- 豊かな自然（市域の8割を占める山林、農地、河川等）
 - 地域に息づく文化（景観、京町家、伝統産業、文化財等）
 - ヒューマンスケールなまち（生活利便性、地域の絆等）
- ※京都らしさを守り磨く。時代に対応していく。

京都ならではの魅力と都市活力の循環

- ・地理的制約への対応と市域全体の持続性
 - ・周辺部等の多様な地域拠点の活性化
 - ・人口減少の歯止めと働く場の確保
 - ・安心安全、快適で健康な暮らしの実現
 - ・多文化・環境共生、国際文化観光都市の質の向上等
- *ウイズコロナ・ポストコロナ社会も展望

新たな価値を創造する都市であるための伸びしろ

- 交通インフラの整備（地下鉄線、高速道路、新駅開業等）
 - 都市整備・再生（らくなん進都、区画整理、NT・住宅団地等）
 - 近隣都市とのつながり（地理的な連続性、交通アクセス等）
- ※次世代のための都市環境と都市機能の受皿をつくる。

今回、都市マスの拡充において特に検討すべき論点

論点① 新たな時代の「職住共存・職住近接」

～エリア間のつながり～

論点② 広域的な視点と「都市圏」

～都市間のつながり～

論点③ これからの「暮らしと営み」に対応したまちづくり

～地域内のつながり～

方面別指針の
検討